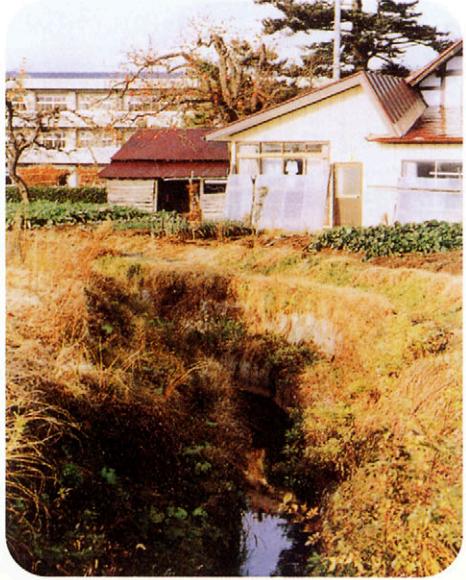


富川ぜきの旧水門



牛沢ぜき (会津坂下町寿ノ宮地内)

【牛沢ぜき】(今の鶴沼ぜき頭首工水路) 今からおよそ330年前ごろまで若宮地区は、ちいさな堤のほかにはかんがい施設のない、水が不足がちでくらしにくいくらいでした。この水を引くことは、若宮地区の農民の長年のねがいでした。

そのような時、1624年(寛永元年)牛沢組郷頭佐原吉左衛門光重が開こんをこころざし、用水づくりを始めました。光重が病気になったあとは、むすこの光忠が引きつぎました。光忠は1656年(明暦2年)に用水路づくりを決意し、代官所へ援助をねがいました。ところが、この計画があまりにも大きいため援助はみとめられず、光忠は自分の財産を投げだして人夫350人をやとい、工事を始めました。

1658年(明暦4年)によくやく会津藩より人夫1万人をあたえられ、ついにこの年4月中旬に完成しました。この用水の通り道にあたる村の中には、この用水路づくりに反対する人もおり、その中には命をうばわれてしまった人が3人いました。このようにして、父光重がとりかかってから30年後にこの牛沢ぜきは完成了のです。

現在の水路は会津高田町の境野新田の鶴沼川より水を取り入れ、新鶴村、若宮地区の東がわから北をまわり、蛭川まで流れています。水